

はる せいざかいせつ 春の星座解説

身を切るような冷たい風が、
いつしか頬をなでるそよ風になると、
夜空もやさしい光を放つ星たちで、満たされます。
乾燥した冬と違って、水蒸気の多いこの季節。
空気自体が、フィルターとなって、星の光をやわらかく伝えます。
そんな星ばしが演出するのは、春の星座たち。
これから、いくつかたどってみましょう。



はる せいざかいせつ 春の星座解説

身を切るような冷たい風が、
いつしか頬をなでるそよ風になると、
夜空もやさしい光を放つ星たちで、満たされます。
乾燥した冬と違って、水蒸気の多いこの季節。
空気自体が、フィルターとなって、星の光をやわらかく伝えてきます。
そんな星ばしが演出するのは、春の星座たち。
これから、いくつかたどってみましょう。

(約 19 分)

まずは、方角の確認です。

空の高いところ。こんな形に並んだ
7つの星を探してください。

これは、『北斗七星』。北のひしゃく
の七つの星という意味の名前です。

この二つの星を結んで、ひしゃくの水をくむ方向に5倍のばした先



にあるのが『北極星』。星は、時間や
季節とともに、移り変わっていきますが、
この北極星だけはほとんど動きません。
だから、いつでも北の方角の目印とし
て使う事が出来る便利な星なんです。

おとめ座の銀河

大三角の二つ目は、南の空の低い
ところで、清楚な輝きを放っている星、
おとめ座の『スピカ』。穂先という意
味のとおりに、ここには麦の穂を持った
女神の姿が描かれています。このお
とめ座には、ちょっと変わったあだ名
を持つ天体があります。『M104』。
真横から見た銀河ですが、そのあだ
名は世界共通。メキシコの帽子ソン
ブレロに見立てて、『ソブレロ銀河』
と呼ばれています。



春の大三角 ～うしかい座・りょうけん座・かんむり座をめぐって～

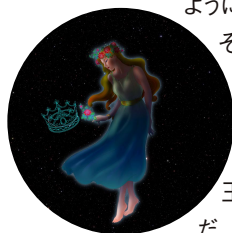
さあ、いよいよ星空散歩。正面、南の空から左の方にかけて、三つ
の星が作る大きな三角形が『春の大三角』です。最初の一つ目は、
東の空高い所、オレンジ色に輝く星、うしかい座の『アークトゥルス』。
ギリシャ神話では、天空を支える巨神アトラスの姿だともいわれてい
ます。うしかい座がつれている2匹の犬は、りょうけん座。犬の首



のところにあるのは、王冠をかぶったハート
ですが、この星は『コル・カロリ』といって、
チャールズ王の心臓という意味です。



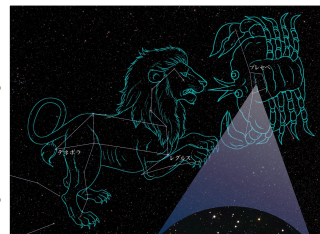
りょうけん座には、おもしろい名
前の天体があります。『M51・子
持ち銀河』。まるで、大きな銀河と小さな銀河が手をつないでいる
ように見えることから名付けられました。うしかい座の



そばには、もうひとつかわいらしい星座があります。
まあくつながつた、星の並び、かんむり座です。
神話では、クレタ島の王女、アリアドネのかぶっ
ていたものだと言われています。きらびやかな
王冠というより、花やオリーブの葉っぱなどで編ん
だ、素朴なかんむりだったのかもしれないね。

春の星空散歩 しし座～かに座

大三角の最後の星は『デネボラ』。
ししの尾という意味の名のとおりに、ラ
イオンの姿のしし座です。ししの胸
のところの明るい星は、『レグルス』。
小さな王という意味で、地動説で知
られるコペルニクスが名付け親です。



ししの視線をたどっていくと、ぼ
うっとした雲のようなものが
見えませんか？これは、古代
ギリシャでは、小さな雲とも、小さな
霧とも呼ばれた天体ですが、雲ではなくたくさん
の暗い星の集まりです。そのようすから、かいばお
けという意味の『プレセペ』と呼ばれています。プレセペが星の
集まりであることを最初に見破ったのは、あのガリレオ・ガリレイ。
このプレセペを甲羅に乗せてうずくまっているのが、かに座。しし座
と同様、英雄ヘルクレスに退治されてしまった星座なんです。



春霞、おぼろ月夜というように、春の空は、
ぼうっとして見えることが多いもの。星空散歩
には向かない季節のようですが、逆にゆっくり
と眺めてみては？個性的な星の並びが、つぎ
つぎと行く先を示してくれることでしょう。



語り：鶴 ひろみ 星座：神話イラスト：塚田洋子 CG：NOBO
天体写真：NASA, ESA and The Hubble Heritage Team NOAO/AURA/NSF